

アメリカの大学図書館による学士課程学生対象の表彰制度の現状調査

新見慎子（慶應義塾大学大学院）

niimi@z7.keio.jp

1. 研究の背景と目的

近年、「学士課程学生による研究（Undergraduate Research）」が国際的に注目されている。各国の高等教育の状況により、導入の経緯・とらえ方は異なるものの、欧米等の大学において促進の取り組みがなされ、高等教育関係の国際学会におけるテーマにもなっている¹⁾。

特に、アメリカでは早くから取り組みがなされており、1978年には全国的な組織である Council on Undergraduate Research²⁾が発足し、現在まで活動を行っている。具体的な例としては、スタンフォード大学の事例を分析した研究において、「学士課程学生による研究」の促進方法として、学科による正規プログラムと選択制の研究プログラムの双方での実施、研究助成金の支給、研究発表の場の提供と表彰などがあげられている³⁾。

大学図書館においても、「学士課程学生による研究」への取り組みが行われている。その中の1つに、学士課程学生が授業内外で取り組んだ、主に図書館の資料・資源を活用した研究を表彰する制度がある。2002年に開始したカリフォルニア大学バークレー校図書館が代表例・嚆矢とされており⁴⁾、同制度は2005年に大学研究図書館協会（ACRL）の Instruction Section より、Innovation Awardを受賞している⁵⁾。しかし、大学図書館による表彰制度に関する文献は、日本では簡単に触れたもの⁶⁾があるのみで、アメリカにおいても事例報告⁴⁾が見られるのみである。

本研究では、アメリカの大学図書館によって行われている学士課程学生を対象とする表彰制度を調査し、現状を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

研究図書館協会（ARL）に加盟する図書館⁷⁾のうち、アメリカの大学図書館（100大学）を対象として、ウェブサイトを利用した表彰制度の現状調査を実施した。表彰制度の実施の有無は、サービス案内ページやお知らせページの閲覧、サイト内検索や検索エンジンの利用によって調査した。実施が確認できた場合、表彰制度に関するページを確認して詳細を調査した。調査期間は、2012年6月から9月である。調査課題は、(1)表彰制度の実施状況、(2)表彰制度の実施方法、(3)表彰に際しての評価基準、の3点とした。

3. 結果

3.1 実施状況

2012年6月時点で、ARLに所属するアメリカの100大学のうち、31大学において表彰制度の実施を確認できた（第1表）。1大学で複数の賞を実施している例も見られ、本研究では37件の賞を調査対象とした。なお、学士課程学生のみを対象とする賞がほとんどであるが、学士課程学生と大学院生の部門がある賞が2件、学士課程学生から大学院生までを対象とする賞が1件あった。

3.2 実施方法

3.2.1 賞の類型

対象とする学生（学年）や研究の違いによって、賞を以下の4つに類型化することができた（第1表）。

① 学士課程学生による研究全般を対象

対象とする学年や分野を詳細に特定しておらず、学士課程学生による研究全般を対象としている賞である（以下、「類型①-全般」）。今回の調査では、21大学（22件の賞）での

第1表 表彰制度を実施している大学図書館（ARL加盟館）と
本研究における調査対象の賞の一覧

図書館名	賞の名前	賞の類型
アリゾナ大学図書館	Katheryne B. Willock Library Research Award	全般
イェール大学図書館	Harvey M. Applebaum '59 Award, Manuscripts & Archives Senior Essay Prizes, Beinecke Library Prize in Early Modern European, Library Map Prize Studies	特定資料
インディアナ大学ブルーミントン校図書館	Sam Burgess Undergraduate Student Library Research Award	全般
ウィスコンシン大学マディソン校図書館	・Undergraduate Research Awards ・Research in Progress Award	全般
エモリー大学図書館	Woodruff Library Undergraduate Research Awards	全般
オハイオ州立大学図書館	University Libraries Undergraduate Research Prize	特定学生
オハイオ大学図書館	Student Expo Library Award	全般
オレゴン大学図書館	Library Undergraduate Research Project Awards	特定学生
カリフォルニア大学アーバイン校図書館	Libraries-UROP Research Fellowship Award	全般
カリフォルニア大学サンディエゴ校図書館	Undergraduate Library Research Prize	全般
カリフォルニア大学バークレー校図書館	Library Prize for Undergraduate Research	全般
カリフォルニア大学ロサンゼルス校図書館	Library Prize for Undergraduate Research	全般
サウスカロライナ大学図書館	University Libraries Award for Undergraduate Research	全般
シカゴ大学図書館	John Crerar Foundation Science Writing Prize for College Students	特定分野
ジョージ・ワシントン大学図書館	The Eckles Prize for Freshman Research Excellence	特定学生
ジョージア大学図書館	UGA Libraries' Undergraduate Research Awards	全般
デューク大学図書館	・Robert F. Durden Prize ・Chester P. Middlesworth Awards	・全般 ・特定資料
テンプル大学図書館	・Library Prize for Undergraduate Research ・Library Prize for Undergraduate Research on Sustainability & the Environment	・全般 ・特定分野
ニューヨーク州立大学バッファロー校図書館	Undergraduate Research Prize	全般
ノースカロライナ大学チャペルヒル校図書館	Parker-Dooley Awards for Undergraduate Research in Southern Studies	特定資料
ノートルダム大学図書館	Undergraduate Library Research Award	全般
ブラウン大学図書館	Library Undergraduate Research Award	全般
ペンシルベニア州立大学図書館	Annual Competition for the Outstanding Undergraduate Thesis	特定学生
マサチューセッツ大学アマースト校図書館	Undergraduate Research Award	特定資料
ミシガン大学図書館	MLibrary Undergraduate Student Research Award	全般
ミズーリ大学コロンビア校図書館	MU Libraries Undergraduate Research Paper Contest	全般
ミネソタ大学図書館	Annual Carol Urness Student Writing Award	特定資料
メリー大学図書館	Library Award for Undergraduate Research	全般
ライス大学図書館	Fondren Library's annual Undergraduate Research Award	全般
ラトガース大学図書館	Margery Somers Foster Undergraduate Multimedia Awards	特定分野
ワシントン大学図書館	Library Research Award for Undergraduates	全般

実施を確認した。全ての大学において、賞の対象を図書館の資料・資源全般を利用した研究と定めていた。全学年・全分野を対象としているが、学年や分野別に部門がある賞も存在した。

②特定の資料を利用した研究を対象

図書館が所蔵する貴重書や特殊コレクションを利用した学士課程学生による研究を対象としている賞である（「類型②-特定資料」）。5大学（8件の賞）での実施を確認した。

③特定の学士課程学生による研究を対象

対象とする学生の学年を特定し、彼らの研究を対象としている賞である（「類型③-特定学生」）。4大学での実施を確認した。対象は、初年次生、高学年生（中上級レベルの授業の受講者）、卒業年次生と大学によって異なる。

④特定分野の研究を対象

特定の分野における学士課程学生の研究を対象としている賞である（「類型④-特定分野」）。3大学での実施を確認した。対象分野は大学によって異なる。

3.2.2 図書館の資料・資源の利用

本研究で調査対象とした37件の賞のうち、36件の賞において、表彰の対象を図書館の資料・資源を利用している研究と明記しているのを確認した。図書館の資料・資源に関して明記していない1件においても、引用文献を重視するとは明記されていた。

3.2.3 表彰の対象（何を表彰するのか）

多くの賞は、学士課程学生（個人もしくはグループ）の研究成果物を表彰の対象としている（35件）。研究成果物の形態は、特に1つの形態に定めていない賞が22件、論文のみが11件、マルチメディアのみが1件、詳細不明が1件であった。「類型①-全般」の賞は1つの形態に定めていない場合が多く（17件）、「類型②-特定資料」の賞は論文のみの場合が多い（6件）。成果物が完成していない段階での研究計画への表彰は2件あり、これは研究助成の性格が強いと考えられる。

どこで取り組んだ研究を対象としているかを確認したところ、授業内と授業外（選択制の研究プログラムや個人）での研究と明記している賞が14件、授業内での研究が11件（授業外は不明も含む）、授業外での研究が3件、不明が9件であった。

3.2.4 賞金額

賞金額（順位がある賞の場合は1等の金額）は、100ドルから1,500ドルまでの幅があった。最も多いのは1,000ドル（14件）、次が500ドル（11件）であった。賞金に加えて、図書券を授与する賞が1件あった。その他、機関リポジトリへの掲載、大学アーカイブでの保存、展示などの特典がある場合もあった。

3.2.5 応募時に必要なもの

賞への応募時には、(i)研究成果物(35件)、(ii)研究プロセスや図書館の資料・資源の利用に関するエッセイ(23件)、(iii)文献・資料リスト[論文等に付す引用文献一覧とは別途](15件)、(iv)教員からの推薦(22件)、が必要となっている。その他のものとして、図書館員との事前面談(2件)、図書館員との事前面談または情報リテラシー講座への出席(2件。ただし1大学)があった。

3.2.6 審査体制

15大学において、賞における審査体制を確認できた。最も多いのは教員と図書館員による審査であった。彼らに加えて、大学院生や学士課程学生、学内の他部署、援助機関(3.2.7参照)である図書館友の会・財団が含まれる大学もあった。図書館員のみによる審査の大学もあった。

3.2.7 連携

学内で開催されている学生の研究発表イベントの一環として賞を実施しているのが、8大学(9件の賞)であった。学士課程学生の研究プログラム(選択制)の一環としての実施が1大学であった。

学内の協力部署や援助機関を確認できたのは12大学であった。学内の協力部署として

は、学士課程学生の研究に関する部署・プログラム（4 大学）、学士課程教育部署、学生支援部署、奨学金部署（各 1 大学）が見られた。援助機関等としては、図書館友の会（4 大学）、財団（2 大学）、卒業生組織、出版社、個人（各 1 大学）が見られた。

3.3 評価基準

表彰に際しての評価基準を確認できたのは 29 大学（32 件の賞）であった。評価基準は、(a)図書館の資料・資源の活用度、(b)研究の質（研究レベル、研究プロセス、引用の適切さ、オリジナリティなど）、(c)学生の学びの深度（研究・探求の態度や能力の習得、情報リテラシーの習得など）の 3 点に類型化することができた。

(a)(b)(c)の全ての基準を明記している賞が最も多く 19 件であり、その全てが「類型①-全般」もしくは「類型③-特定学生」の賞であった。(a)(b)の基準を明記している賞は 9 件、(a)(c)の基準を明記しているのは 1 件、(b)(c)の基準を明記しているのは 1 件、(b)のみを明記しているのは 2 件であった。

4. まとめ

本研究によって、アメリカの大学図書館による学士課程学生を対象とする表彰制度の現状の一端が明らかになった。

学士課程学生を対象とする表彰制度は、ARL に加盟するアメリカの大学図書館の少なくとも 3 割で実施されており、それなりに広まっている制度であるといえる。

調査結果より、大学図書館による学士課程学生を対象とする表彰制度には、表彰の対象とする学生（学年）や研究、実施方法、評価基準の面において、大学による違いが見られる部分もあることが明らかとなった。しかしながら、表彰制度をとおして、学士課程学生による研究、図書館の資料・資源の利用の促進を試みている点は共通している。このよう

な特徴を持つ表彰制度は、大学図書館が学士課程教育への支援・関与を行うための有効な手段の 1 つであると指摘できる。

謝辞

本研究は、平成 24 年度慶應義塾大学大学院博士課程学生研究支援プログラムの助成を受けて実施したものです。

【引用文献】

- 1) 中井俊樹. 学士課程の学生に研究体験は必要か: 国際的動向と論点整理. 名古屋高等教育研究. 2011, no.11, p.171-190.
- 2) Council on Undergraduate Research. <http://www.cur.org/>, (accessed 2012-09-17).
- 3) 中島(渡利)夏子. 米国の研究大学における 1990 年代以降の学士課程カリキュラムの特徴: 研究に基づく学習を重視するスタンフォード大学の事例から. 東北大学大学院教育学研究科研究年報. 2008, vol.57, no.1, p.173-189.
- 4) Jones, Lynn. The rewards of research: Library prizes for undergraduate research. *College & Research Libraries News*. 2009, vol. 70, no. 6, p. 338-341.
- 5) "Library Prize for Undergraduate Research". The Library-University of California, Berkeley. <http://www.lib.berkeley.edu/researchprize/recognition.html>, (accessed 2012-09-17).
- 6) 新見槇子. アメリカの学部学生用図書館のサービスと概念の変遷: 1990 年代以降の変化を中心に. *Library and information science*. 2011, no. 66, p.81-126.
- 7) "Member Libraries". Association of Research Libraries. <http://www.arl.org/arl/membership/members.shtml>, (accessed 2012-09-17).